絹の靴下（1957）

SILK STOCKINGS

メディア 映画
ジャンル ミュージカル
製作国 アメリカ
色彩 Color
時間 117分
初公開日 1958/02/13
公開情報 大映

【解説】

“ガルボ初めて笑う”と謳われた（確かに思い切り笑った彼女は愛嬌たっぷりでイメージが狂う）ルビッチの名作「ニノチカ」の、コール・ポーター作詞・作曲のミュージカル舞台化の映画版で、前作で伯爵（Ｍ・ダグラス）だった相手役は、今回アステアの映画プロデューサーとなり、ヒロインには見事な脚線美のＣ・チャリシーが扮する。

彼女はお堅い旧ソ連の文化委員だが、野暮ったいマキシ・スカートに包んで出し惜しみする美脚を、ハイライト・ナンバーの“Silk Stockings”（今回は彼女の憧れは靴下、前作だと帽子）では艶やかなバレエに合わせ、どぶねずみルックを脱ぎ捨てパリのトップ・モードに着替える際、たっぷりその姿態ごと披露してくれる。元々、表情に乏しい彼女は却って、この鉄面皮の美女にうってつけで、華麗なステップを披露して彼女の機嫌を伺うアステアに眉を吊上げたままニコリともしない所なんざ素晴らしかった。

さて物語は概ね前作と同じで、その運びにも大差ない。ただ革命間もなかった旧ソ連人の不安を素直にさらけ出して笑い飛ばす前作（そこには資本主義に対する諧謔も当然含まれる）のブラケット＆ワイルダーの痛快な脚本に較べれば、むしろ冷戦下の本作の台詞の方が大分トーン・ダウンして、それを補うのがウィットに富んだポーターの歌詞である。前作のガルボの恋敵であった皇太妃は、本作だと、映画の主演女優ペギー・テイトン（Ｊ・ペイジ）。エスター・ウィリアムズのような元水着の女王という役回りだが、アステアと共に＜今の映画にスターは要らぬ、テクニカラーとシネスコとステレオ音響があればいい＞と唄う“Streophonic”など最高なのに、いつの間にやら主筋に絡まなくなるのが弱い。物語の発端となる、Ｐ・ローレらが扮する三人の先任委員は前作ほどでないにしろ今回も大いに笑いを取る。アステアはむしろ彼らのオブザーバー的立場だが、最後のショウ場面ではＲ＆Ｒをスマートに踊ってみせ貫禄を示す（この“The Ritz Roll & Rock”はアステア直々の依頼でポーターが書き下した）。

なお、このストーリーは’５６年に英国映画「ロマンス・ライン」としても映画になっている。ともあれ、前作の洗練さは失われたが、このリメイクは快活さに満ちていて、それはそれ、大いに楽しめる。

【クレジット】

監督	ルーベン・マムーリアン	Rouben Mamoulian
製作	アーサー・フリード	Arthur Freed
脚本	レナード・ガーシュ	Leonard Gershe
	レナード・スピゲルガス	Leonard Spigelgass
撮影	ロバート・ブロンナー	Robert Bronner
音楽	コール・ポーター	Cole Porter
	アンドレ・プレヴィン	Andre Previn
出演	シド・チャリシー	Cyd Charisse
	フレッド・アステア	Fred Astaire
	ピーター・ローレ	Peter Lorre

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

ジャニス・ペイジ	Janis Paige
ジョージ・トビアス	George Tobias
ジュールス・マンシン	Jules Munshin

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.